

－村史こぼれ話 3－

明訓校最後の校長「藤田九二先生」

明治の頃、日本の三校といわれた弥彦の明訓校に関しては、商工会館脇にある「明訓校之址」(陸軍大将鈴木莊六書)と弥彦神社にある「明訓学校校額」(有栖川宮熾仁親王揮毫)が知られているが、宝光院裏山で婆々杉に抱かれるように明訓校最後の校長藤田九二先生のお墓があるのをご存じない人が多い。

藤田九二先生は、明治16年(1883)に開学した明訓校が、明治18年県立に移管された時点で教員に任用され、新潟県御用掛として弥彦に赴任された。翌年、大橋一蔵先生が校長を辞して北海道開拓に転じた後は、校長代理として実質的な校務を一身に背負われた。県立としての明訓校は明治21年7月廃止となるが、藤田先生は多くの支持者の協力と推挙を受け、私立明訓校の校主＝校長となった。以後、学校経営のため、多くの困難と戦いながら、明治29年に明訓校が廃校となるまでその任を果たされた。

先生は明訓校廃校の後、新潟市に転居されるが、明治33年他の明訓関係者ととともに、社団法人明訓校団を結成され、明訓の名跡と精神を伝承することに力を尽くされた。この法人の理事・団長は関矢孫左衛門、理事専務が藤田九二であった。校団の総会や明訓校の同窓会は毎年弥彦で開催され、美濃屋と冥加屋が交互に会場となった。

先生は明訓校と弥彦の自然をこよなく愛され、生前に墓地を宝光院の奥婆々杉の傍らに求められた。大正10年にそこに藤田家の墓所を築かれ、ご両親等の霊を合祀された。墓誌銘は先生自身が作成された漢文体の名文である。3年後の大正13年(1924)、藤田先生は新潟の居宅でその生涯を終えられたが、霊はこの弥彦の山懐に帰られ永眠された。



藤田久二先生のお墓

この後、明訓校の名跡と建学の精神は新潟夜間中学に継承され、昭和17年、同校に併設する屋間制明訓中学として生まれ変わった。これが今の新潟明訓高等学校の前身である。

(参考 弥彦郷土誌第14号小杉正男著「明訓学校と藤田九二先生」)